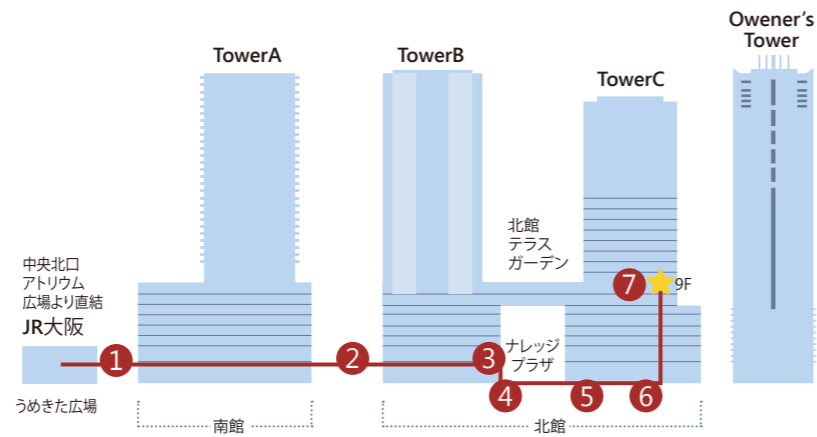


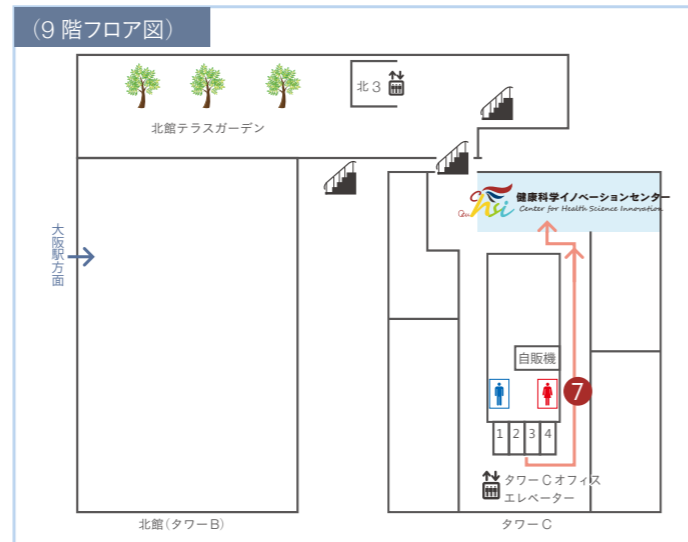
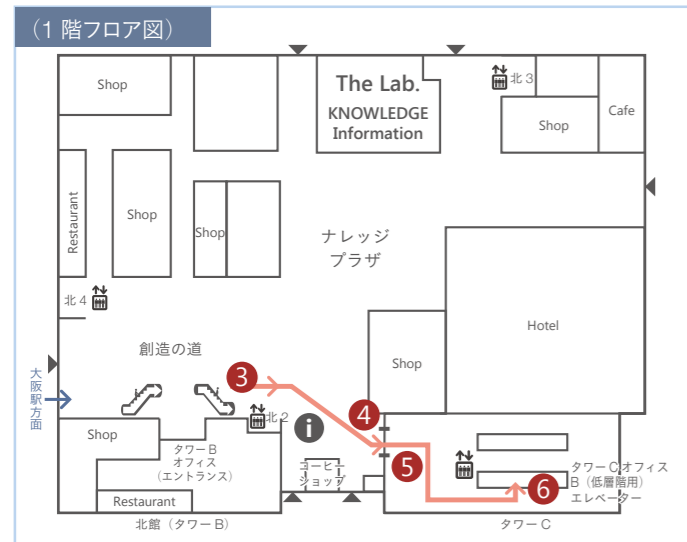
「大阪公立大学健康科学イノベーションセンター」への経路

一番簡単なルート

- ① JR 大阪駅中央北口から、グランフロント南館（タワー A）へ
- ② 2階を北館（タワー B）へ進んでください
- ③ タワー B エスカレーターで1階へ下りて、タワー C 方向へ進んでください
(エレベーターをご利用の方は「北 2」エレベーターで1階まで下りてください。)
- ④ ナレッジプラザをタワー C 方向に進むと、右前方に“タワー C オフィス入口”があります
- ⑤ “タワー C オフィス入口”を奥に進むと、A と B のエレベーターがあります
- ⑥ B（低層階用）のエレベーターで9階へ上がって下さい
- ⑦ フロアを半周すると到着です



※お車でお越しの方は地下3階一般駐車場より、「タワー C オフィスエレベーター」にて9階まで上がってください。



 大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

Since
2013.7.26



健康科学イノベーションセンター
Center for Health Science Innovation

大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

健康科学イノベーションセンター
Center for Health Science Innovation(CHSI)

〒530-0011
大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪 北館 (ナレッジキャピタル) タワーC 9F
TEL 06-6485-0288
URL <http://www.chsi.osaka-cu.ac.jp/>

センター所長からメッセージ



センター所長
岡崎和伸

私たちのセンターは、単に大学・研究機関からの健康科学に関する研究成果を披露・発信する場として活動展開するのではなく、「みんなで“拓く”健康科学イノベーションの“ベースキャンプ”」をスローガンに、産・学・官・医・消費者と一緒に連携できる健康科学推進拠点を創ることを目標としています。

多くの人が行き交う“うめきた”地区に立地するグランフロント大阪・ナレッジキャピタル内に、2013年夏、大阪市立大学の新しいセンターとして開設されて以来、健康維持・先制医療への先進的取り組み(健康科学研究)に関する発信に加え、他大学・研究機関(学学連携)、企業(産学連携)、さらには、医療機関等との連携を通じた健康科学領域の新たな成果や製品・サービスの創出等を進めて来ました。

渡辺恭良前センター所長より、2018年度からセンター所長を引き継ぎました。私はこれまで、スポーツ科学・健康科学をベースとし、“トップアスリートの競技パフォーマンス向上”に関して、あるいは、“健康寿命の延伸・アクティブヘルスライフのための身体活動・運動・栄養”に関して、科学的根拠に基づいた効果的な方法(Evidence-Based Approach)を提示する研究を推進して来ました。

2022年4月より大阪府立大学と大阪市立大学は統合し、「大阪公立大学」となりました。新しい「健康科学イノベーションセンター(CHSI)」では、これまでの疲労・抗疲労の医学・科学を中軸とした、より身近な“健康・健康科学”領域のイノベーション創出に加えて、スポーツ科学・健康科学を中軸とした、より“アクティブな健康づくり”領域のイノベーション創出を体感していただける場として活動して行きます。

ご指導・ご助言・ご支援をよろしくお願い申し上げます。



渡辺恭良初代所長



「みんなで拓く、健康科学イノベーションのベースキャンプ！」をコンセプトとして、2013年7月26日に、開所いたしました。健康科学イノベーションセンターの活動や目指す目標などは、各種セミナーなどを適宜開催することで、関係者のみならず広く一般の皆様にもご紹介しています。



センター



疲労測定器



健康情報の発信

センターでは、疲労測定や健康情報の発信などを行っております。

事前予約制

予約方法及び開所日は本センターホームページ等でご確認ください。



健康測定会

本センターでは、認定NPO法人健康ラボステーション、一般社団法人日本姿勢と歩き方協会と共催にて、ご自身の健康度を「見える化」することで、日々の健康維持・管理に役立てていただくことを目的に、毎月1回、各種測定機器による測定のほか、運動プログラム、ミニセミナー等を企画し、「健康測定会」を開催しています。(開催月によって内容は変更します)
また、企業や地域、自治体、イベント等へ「出張」して健康計測も実施しています。



健康人・未病 / 一般の皆様にも様々な試験に参加していただき、健康科学に関連する優良な製品・サービスの育成・新規開発に関する研究を通じて、予防医学・先制医療の発展に関与していただく活動を展開しています。



参加研究展開中!

「被験者募集情報」などは
本センターホームページでご確認ください。
<http://www.chsi.osaka-cu.ac.jp/>



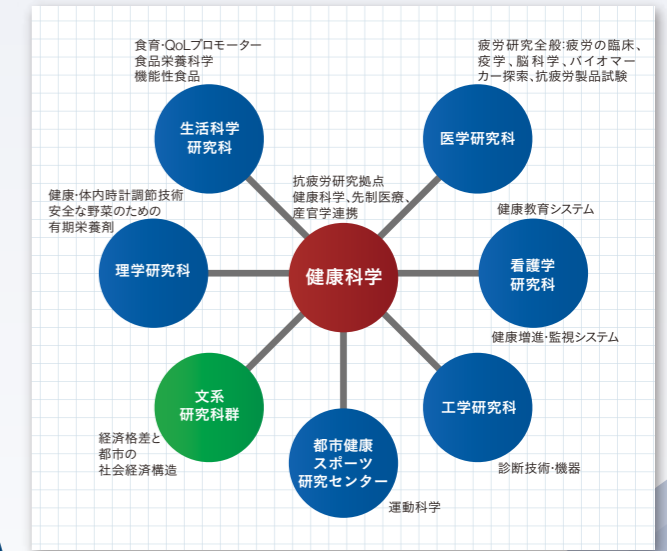
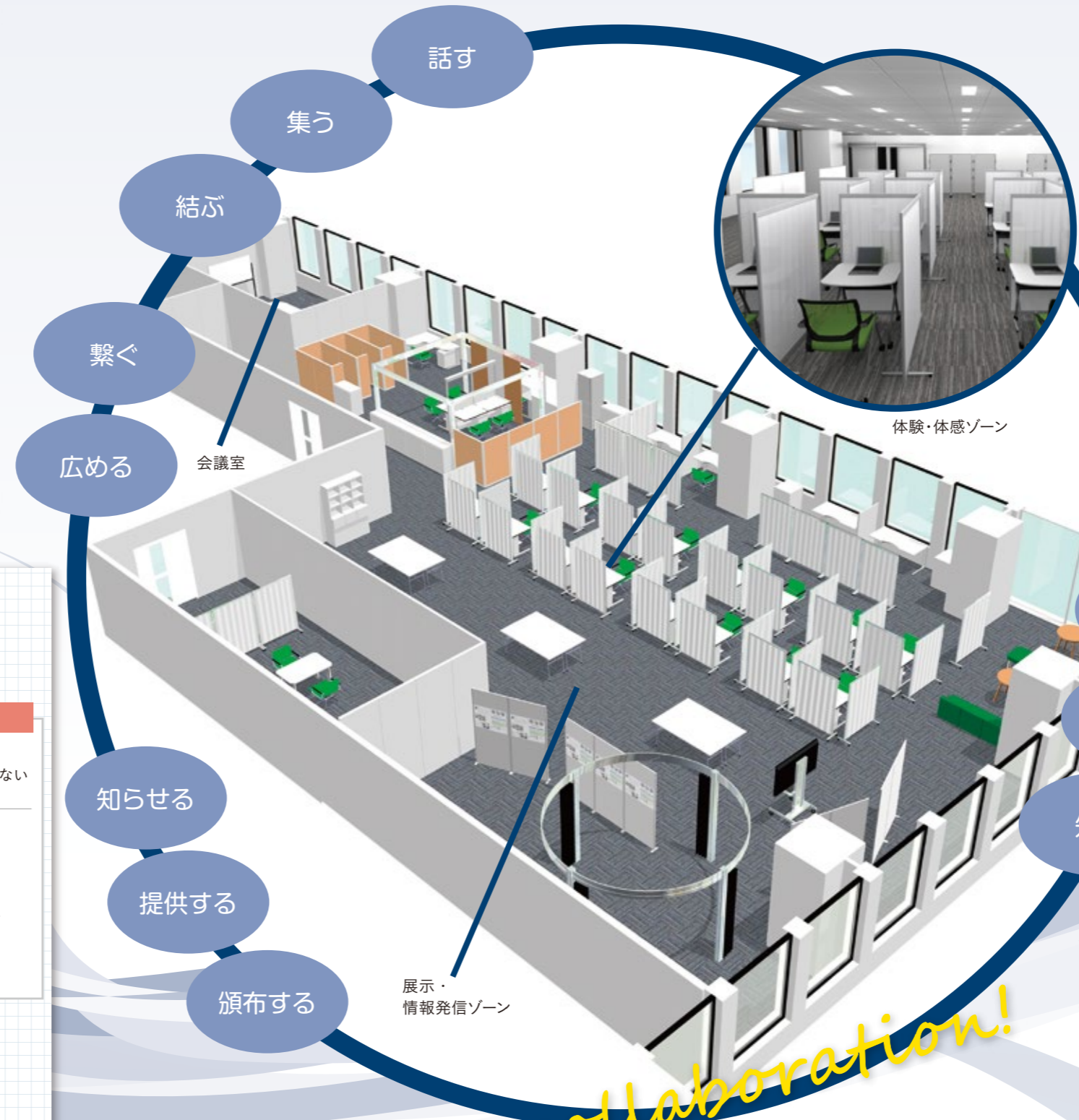
みんなで“拓く”健康科学イノベーション“ベースキャンプ”

企業、行政、研究者らに加えて、消費者が力を合わせ、健康に良い製品・サービスや環境を築くために、自ら開発試験に参加していただけます。また、良いモノ・サービスを評価する眼力と最先端の正しい知識を身に付け、健康科学産業・ビジネスを日本の根幹産業に押し上げる力添えをしていただけます。

大阪公立大学では健康科学に関する種々の研究が行われており、医学研究科では「疲労」をターゲットとした「疲労回復」「抗疲労」に関する研究が盛んに行われてきました。また、近年では「アンチエイジング」「安全・安心」という見地からの研究についても全学体制で取り組んでいます。そこでこれらの研究を「健康科学領域」と位置付け、研究シーズや研究成果を広く発信し、関西発の新たなイノベーションを起こすための拠点として「健康科学イノベーションセンター（CHSI）」を設立しました。

センターの役割

- 産学連携**
多様な連携を通じた新たな健康科学関連製品やサービスの創出
- 地域貢献**
健康科学に関する広範な情報発信による理解の拡大や認知の向上
- 人材育成**
健康科学を推進する若手研究者や高度専門人材の育成



健康科学分野でのイノベーション創出

大学・研究機関・医療機関

消費者・ユーザー

企業

連携

健康科学推進会議

データ収集

科学的エビデンス (疲労・癒し・快適・心地)

人材育成

ビジネスマッチング

国際連携

うめきた健康科学拠点

新製品・サービスの創出と社会全体の健康増進

- 体感する
- 学ぶ
- 研究する
- 知る

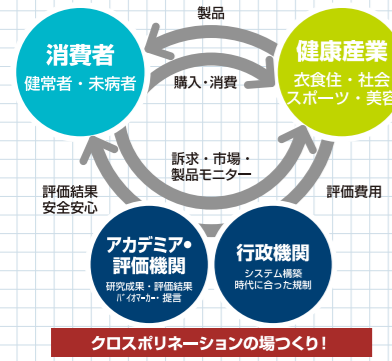
センターでは、健康科学製品や簡易疲労測定などを体験することができます。お越しになられた皆様は、単に「お客様」ではなく「参画者」として健康科学イノベーションに関わる仲間としてご協力をお願いします！

collaboration!

産学官連携活動

健康科学イノベーションセンターは、2013年7月の開所以来、①専門家・研究機関/企業等と健康科学領域での新しい課題の模索や設定したテーマの展開方策を協議する【“うめきた”健康科学新基軸ブレインストーミング】、さらには、これらプレストで得られた知見も含めた、②近い将来に利用・体験が可能な課題に関して研究開発展開の促進や臨床/研究のバックヤードの効率的な活用方策などを協議・相談する場であるいくつかのテーマ/領域の【健康科学ビジネス懇話会】などの活動を展開してきました。

斬新で先駆的なアイデアやユニークな考え方を発掘する“プレスト”および様々な課題・領域の“事業化コンソーシアム”の活動により、その後の共同研究への発展や実証・実践フィールドでの活動にステージアップしたテーマもあります。引き続き、特定の課題・領域に関して、1日も早い時期に健康科学イノベーションの結実成果として多くの皆様にお届けできるように努めております。



産学官医連携での活動展開に加え、消費者・一般の方にも健康科学イノベーションの創出に参画いただき、予防医学/先制医療・健康科学において必須の課題である「病気になる医学」を進めることを実現する“クロスポリネーション”の場の構築に努めています。すなわち、健康人・未病/一般の人達が集まる仕組みや社会基盤の構築、さらには、先制医療/予防医学・健康科学の実用化研究開発の着手と効果的・科学的な展開を進めています。

主な事業化コンソーシアム

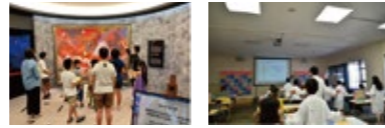
「子どもウェルネス創出」事業化コンソーシアム

シーズや課題・展開方向協議 継続中

子どもを対象にした健康に関連する食・住・運動・育児・コミュニケーションその他の研究開発など多岐

大阪公立大学健康科学イノベーションセンター水野敬センター副所長を座長とし、子どもたちの健やかな発達に資する科学的エビデンスに基づくウェルネスソリューションの創出と事業化促進を目的として、2013年度から活動しています。

(主な取り組み)
文部科学省令和2年度「科学技術イノベーションによる地域社会課題解決(DSIGN-i)」採択事業
テーマ: 子どもウェルネスによるコミュニティ・デザイン
子どもの睡眠習慣改善「ヨドネル」に取り組んでいる大阪市淀川区を拠点に、次世代を担う子どもたちのウェルネスに関する睡眠習慣や生活習慣等の課題を、産学官連携による多面的なエビデンスに基づく住環境と社会環境の基盤構築によって解決し、学校や文教施設と連携した教育、子育て拠点等と連携した子育てサポートを通して、子どもたちがウェルネスの向上を体現できるデザインのあるまちづくりを目指す取り組み



共同研究のご紹介

大阪公立大学では、当センターや医学研究科でターゲットとしている「疲労」「疲労の科学」「疲労回復」「抗疲労」をはじめとする予防医学・先制医療の研究はもとより、全学的にも「アンチエイジング」「安全・安心」「都市の健康科学」という観点の様々な課題に取り組んでいます。

さらに、当センターは、これら学内の連携に加え、位置している“知”の集積地「ナレッジキャピタル」の各機関との連携、医療・健康科学の先進地である大阪～関西の様々な基礎～臨床にわたる高度な先端研究機関・医療機関・公的機関との連携など、健康科学イノベーションを創出する多様な機関とのネットワークを構築しています。

また、大阪・梅田駅に隣接し、ショップやレストラン、ホテルなど様々な業種が集合し、開業後2年足らずで来場者1億人を突破を記録したグランフロント大阪の一角に当センターは位置しており、センターへの来場者も“参画者”として健康科学イノベーションに協力いただくというコンセプトを実現する体制も整備できております。

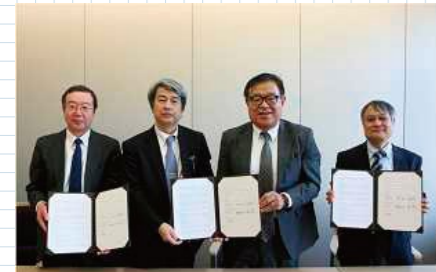
このような健康科学領域の研究開発・イノベーションのネットワークに関するハブ機能を有し、みんなで“拓く”健康科学イノベーション“ベースキャンプ”のコンセプトを展開する我々と一緒に健康長寿社会の実現や健康寿命延伸産業の育成の基盤となる研究・開発にトライしてみたいという研究者・企業の皆様などがいらっしゃいましたら、是非とも当センターへご相談、お問い合わせいただければ幸いです。

学内外の連携ネットワーク



研究機関との連携・協力協定の締結

健康科学イノベーションセンターは、2015年2月16日、理化学研究所(理研)のライフサイエンス技術基盤研究センター、光量子工学研究領域、情報基盤センター、および慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)の総合政策学部、環境情報学部、大学院政策・メディア研究科と、高齢者の健康増進を図り、自立支援を推進する社会の構築に向けた連携・協力を行うことに合意しました。



調印式の模様(2015年2月16日、慶應義塾大学三田キャンパスにて)
左から、協定書を手にする緑川克美理研究光量子工学研究領域長、渡辺恭良理研ライフサイエンス技術基盤研究センター長(大阪市立大学健康科学イノベーションセンター所長)、村井純慶應義塾大学環境情報学部長、姫野龍太郎理研情報基盤センター長。

健康科学に関連する新しい製品やサービスの創出には、企業・行政・研究者、そして特に消費者が力を合わせて取り組む必要があります。消費者・一般市民参加型の研究拠点を一日約250万人の乗降客が行き来する大阪駅前地区のグランフロントに設け、健康を増進し未病状態に陥らないための疲労回復法や過労予防法等の開発を産学官連携で行っています。理化学研究所、慶應義塾大学SFCとの連携・協力により、ヘルスケアのフィールド研究の推進や高齢者の自立支援プログラムへの応用を進め、社会全体の健康増進の実現を目指します。

ビジネス創出プログラム

「大阪公立大学ヘルステックスタートアップス」として、ヘルスケア分野で起業したい方、新規事業を起こしたい方を対象としたビジネス創出プログラムです。大阪公立大学のヘルスケア分野におけるニーズやシーズを活用しながら、ビジネスの組み立て方を実践的に学び、ヘルスケア分野の様々な専門家によるメンタリングにより、新たな製品・サービス開発をめざします。プログラムの最後にはビジネスプランを発表する「デモデイ」を実施し、協業パートナーの探索や資金調達に繋げていきます。

詳細は、センターのホームページ等でご確認ください。

プログラムの特長

各分野の専門家が集結 & 協業パートナー探索も!

- 1 大阪公立大学の医療従事者や教員、ヘルスケア分野の専門家がメンターを務めるため、多角的な視点でアドバイスを受けながらビジネスが構築できます。
- 2 各々の事業プランに応じた実践型ワークショップを中心とするプログラム構成で、早期のビジネス化をめざすことが可能です。
- 3 ビジネスを実現するためのシーズ探索や、ヘルスケア分野に精通する方との交流の場「ヘルステックミートアップ」を通じて、協業パートナー探索をサポートします。

研究奨励寄付のお申込みについて

教育研究奨励寄附金とは、本学における教育研究の奨励を目的とした寄附金のことで、実施する、学術研究 / 教育研究などに要する経費や研究に供する図書、機械、器具及び標本等の購入に活用されます。

当センターの活動展開に協賛いただき、研究奨励寄付についてご興味のある方は、是非とも当センターへご相談、お問合せ下さい。



お問い合わせやご相談は、本センターホームページよりお願いいたします。